研究課題名：多職種連携医療における遠隔口腔ケアシステム確立に向けた基礎研究

研究者名：鈴木啓之¹，日高玲奈²，中川量晴³，戸原 玄³，水口俊介¹，古屋純一⁴

所属：1. 東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 高齢者歯科学分野

2. 東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 地域・福祉口腔機能管理学分野

3. 東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 摂食嚥下リハビリテーション学分野

4. 昭和大学歯学部 高齢者歯科学講座

【緒言】

多職種協働での口腔ケアの実施には、安全かつ効率的な口腔ケア方法の確立が必須である。さらに、医科歯科連携においては、マンパワーの観点から、限られた医療資源を有効に活用できるようなシステムの確立も急務であると考えられる。そこで我々は、口腔の湿潤方法や口腔ケア技術の違いが、口腔ケアの効率性や安全性に及ぼす影響を明らかにすることを目的とした口腔ケアシミュレーション研究と、医療の現場においても導入が進んでいるスマートデバイスを利用した口腔内評価の有効性の検討を目的として、ベッドサイドでの口腔環境評価とタブレットにより撮影した口腔内動画での口腔環境評価との比較研究を行った。本研究は東京医科歯科大学歯学部倫理審査委員会の承認を受けて行った（承認番号 D2016-077, D2016-096）。

【方法】

口腔ケアシミュレーション研究は、口腔ケアシミュレーター（MANABOT®，株式会社ニッシン）を用いて、液体（水）使用時とジェル状口腔湿潤剤使用時の2条件下で、歯科専門職53名と、歯学部学生35名を対象に実施、口腔ケア時の液体・ジェルの使用量および口腔咽頭残留量の評価を行った。また、スマートデバイスを利用した口腔内評価研究は2020年7月から2021年3月までの間に、栄養管理目的で本学医学部附属病院 Nutrition Support Team (NST)へ依頼となった意思疎通可能な入院患者26名を対象に、Oral Health Assessment Tool (OHAT)に基づく、ベッドサイドにおける口腔環境評価（OHAT-B）、タブレット端末（iPad Air, Apple社，アメリカ）により撮影した口腔内動画による口腔環境評価（OHAT-V）の一致度を検討した。

【結果】

口腔ケアシミュレーション研究においては歯科専門職、学生ともに、液体と比較してジェル使用時には、使用量と口腔咽頭残留量が有意に少なかった。また、学生においては、口腔ケアの容易さがジェル使用時に有意に向上した。また、スマートデバイスを利用した口腔内評価研究においては、OHAT-B 総合点は平均 4.8 ± 3.1 ，中央値 5.0，OHAT-V 総合点は平均 4.8 ± 2.9 ，中央値 4.0 であり、OHAT-B と OHAT-V の級内相関係数は、0.871 (0.732-0.940) であった。

【考察】

本研究の結果から、摂食嚥下障害を有する患者に対する口腔ケア時にはジェル状の口腔湿潤剤を使用することが効果的であることが示唆され、タブレットを用いた口腔内動画による口腔環境評価を多職種で応用することで遠隔口腔評価システム確立につながる可能性が示唆された。